



編集・発行 蔵持市民センター Tel/fax 0595-63-0235 HP <https://www.emachi-nabari.jp/kuramochi>

お知らせ

蔵持市民センター事務所開所時間：平日 9:00～16:00 ※左記時間外の対応の方は予めご連絡ください。



1 月の行事より

地 域

受賞を追い風に🏠市民と進める「なんとかなるなるなばり」プロモーション

名張市役所
広報メディア推進室

名張市の広報シティプロモーション推進室の取組が、このたび新たに各種アワードで評価されました。広報コンクールでは2年連続の特選に加え、一枚写真部門・映像部門・審査員特別賞を受賞。さらに「シティプロモーションアワード 2025」金賞、「自治体広報アワード」銅賞も受賞し、名張の魅力を“伝える力”が着実に広がっています。広報シティプロモーション推進室の高嶋さん（蔵持在住）は「皆さんののおかげで、なんとかなっています。」と話します。

そして今、その力を次につなげる取組として進んでいるのが「なんとかなるなるなばり（ロゴ）」のプロモーションです。名張をどう見せると伝わるのか、どんな場面で使うと効果的なのか、幾度も検討と試作を重ねながら進行中。行政だけで進めるのではなく、地域の声やアイデアを取り入れ、みんなで育てていくことを大切にしています。

このプロモーションは広報シティプロモーション推進室が中心となって進行していますが、蔵持地区の住民である高山太一さんや桔梗が丘中学3年生の大久保朱莉さん（保護者同伴）、蔵持まちづくり委員会主催の蔵持地区のイベントなどでも多くの協力してくれている英心高等学校の生徒のみなさん、蔵持市民センター職員など、名張市内各地から集まった多彩なメンバーが参加。地域の現場を知る大人と、これからの名張を担う中高生が同じテーブルにつき、「名張をもっと元気にしたい」という思いで知恵を出し合っています。実際にこのワークに第1期から参加している高山さんは「名張愛に溢れ、常に前向きな皆さんと名張のことを考える至福の時間です！」と語り、今回から参加している大久保さんは「動画を作ってみたくて参加した。ゼロから形にしていく過程を見て、大人ってすごいと思った。」と話してくれました。ロゴの検討に限らず、交流の中に学びが生まれていることも、この取組の魅力です。

昨年度のワークショップでは、エピソード投稿、みんなの「案内所」、カードを使ったコミュニケーション企画、4コマ漫画ポスター・ショートムービー制作などのアイデアが生まれ、現在もオンライン会議を重ねたり、試作と検討を進めたりしながら、より多くの人に届く形を目指しています。うまくいった点も課題も次に活かしながら前に進め、市内の行事や日々の活動の中で、名張の魅力を語る“きっかけ”が増える形を探っています。

参加の形は自由です。イベントで協力する、広報の投稿をシェアする、アイデアを寄せる、周りの人に話してみる、ほんの小さな一歩でも、まちの力になります。できることから一緒に、名張をもっと元気にしていきませんか？



高山太一さんは案内所チーム。「なんとかなるなるの木」を制作して、名張の魅力を発信＆市民の声を拾う仕組み作りをしています。



大久保朱莉さんは動画チームでなんとかなったエピソードを動画にしています。



なんとかなったエピソードをカードゲームに。徐々に形になってきて、先日は大阪のイベントでお披露目もされました。

名張市シティプロモーションサイト



名張市シティプロモーション戦略▼

